2022年3月期　第2四半期
（2021年4月~2021年9月）
決算説明資料

2021年11月5日

TOYO GOSEI

1．2022年3月期　第2四半期　決算概要

2．2022年3月期　第2四半期　事業概況

3．2022年3月期　業績見通し

2022年3月期　第2四半期累計期間業績概要

TOYO GOSEI

- **ポストコロナを見据えた経済回復期待から、先端半導体への投資及び旺盛な需要が継続。**
- **原材料・燃料の価格高騰に加えロジスティクスの混乱があったものの、半導体先端領域向けの製品等の増加により、売上高・利益全て、前期実績・業績予想値に対し、増収・増益を達成。**
- **利益面は前年同期比1.8倍、業績予想値に対しては2割以上の超過。**
- 売上高は、15,710百万円（前年同期比※+2,874百万円、※+22%）
- 利益面は、営業利益2,369百万円（同+1,062百万円、+81%）
  経常利益2,360百万円（同+1,082百万円、+85%）
  四半期純利益1,625百万円（+759百万円、+88%）

（百万円）	2021.3月期 2Q実績値	2022.3月期 2Q業績予想値	2022.3月期 2Q実績値	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	業績予想比 増減額	業績予想比 達成率
売上高	※12,835	15,000	**15,710**	※+2,874	※+22.4%	+710	104.7%
営業利益	1,306	1,980	**2,369**	+1,062	+81.3%	+389	119.7%
経常利益	1,277	1,900	**2,360**	+1,082	+84.7%	+460	124.2%
四半期純利益	865	1,300	**1,625**	+759	+87.8%	+325	125.0%
1株当たり四半期純利益	109.04円	163.79円	**204.79円**				
1株当たり中間配当金	10.00円	15.00円	**15.00円**				
為替レート（USD）	¥105.8/$	¥105.0/$	**¥111.9/$**				

※2022年３月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年３月31日）を適用しております。
この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なっています。
前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期　第2四半期累計期間業績のポイント

TOYO GOSEI

■売上高

15,710百万円（前年同期比※+2,874百万円、※+22%）

- ✓ 感光材セグメント：半導体用途、ディスプレイ用途ともに好調が継続。
- ✓ 化成品セグメント：電子材料が増加、香料関連製品も堅調に推移。原材料高に伴い価格反映を実施。
  ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、国内化学品の荷動き量が回復。

■営業利益

2,369百万円（同+1,062百万円、+81%）

- ✓ 感光材新製造棟の稼働開始、生産能力増強に伴う労務費・償却費、原材料・燃料・物流コスト等の各種費用増があったものの、生産量増加により吸収し増益。
- ✓ 全社的な高付加価値製品の販売が拡大し、工場稼働率が当初計画より上昇。

■経常利益

2,360百万円（同+1,082百万円、+85%）

- ✓ 為替差益が発生、円安により前年同期計上の為替差損の発生はなし。
- ✓ 当期は受取保険金等の発生はなし（△35百万円）

■当期純利益

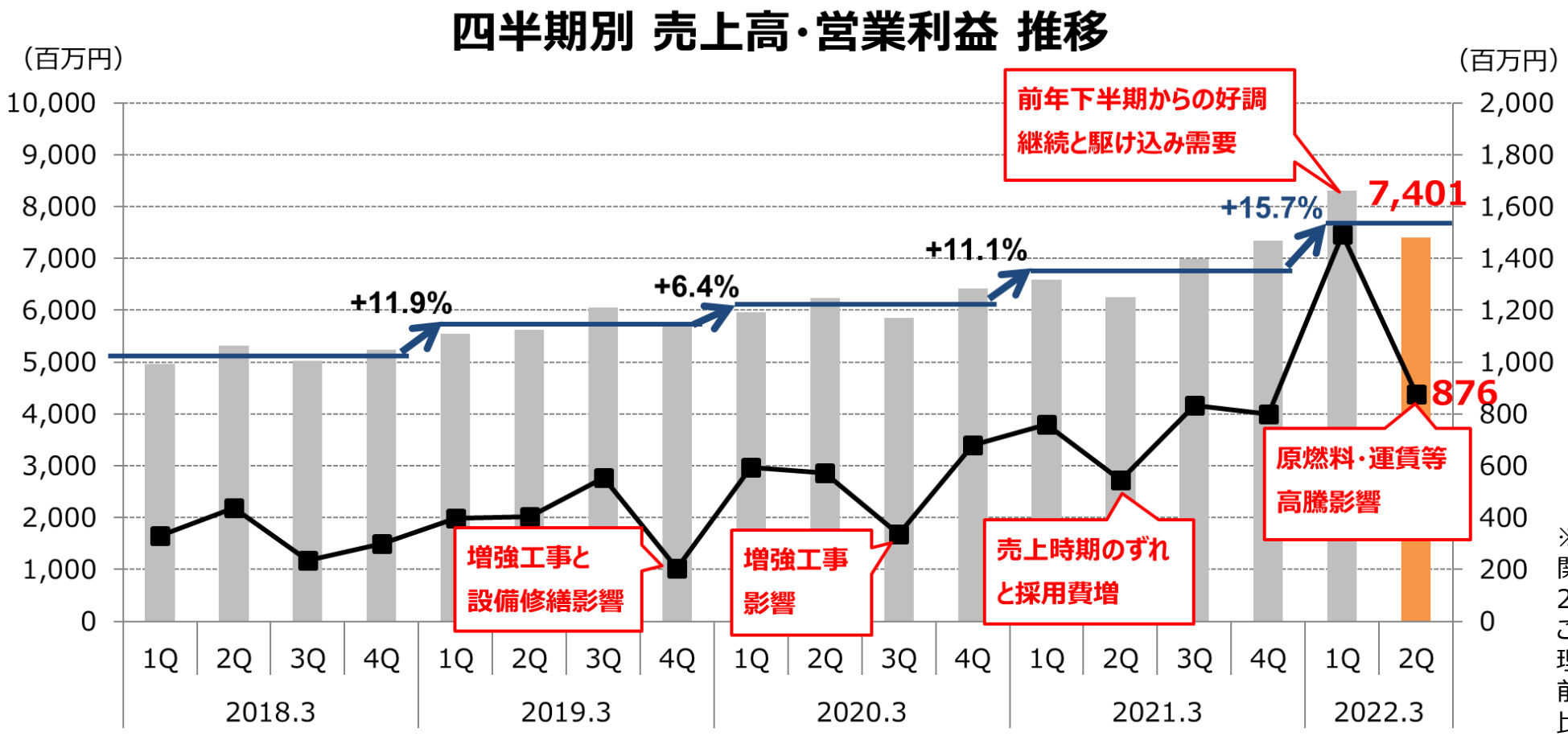
1,625百万円（同+759百万円、+88%）

※前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

四半期別　売上高・営業利益推移

TOYO GOSEI

- 第2四半期の売上高は7,401百万円（前年同期比+1,155百万円、+18%）と順調に推移。
- 原燃料・運賃等の高騰影響を吸収し、営業利益は876百万円（同+330百万円、+61%）と増益を達成。
- 売上高平均は前期67億円から78億円（+16%）と着実に成長し、下半期も同水準を想定。
- 営業利益は原燃料・運賃等の高騰影響もあり、前年下半期の水準で推移する見込み。

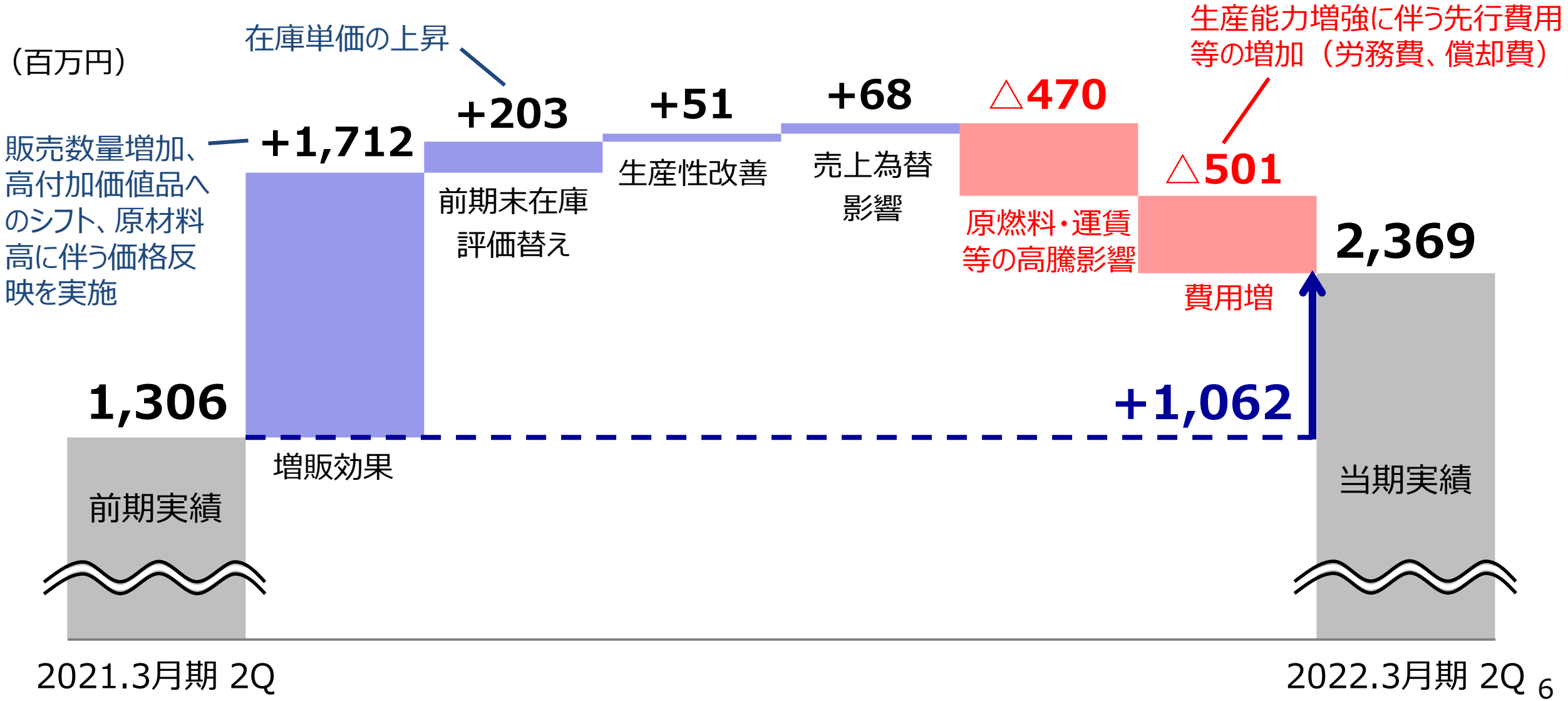


※2022年３月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年３月31日）を適用しております。この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なっています。
前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

営業利益　前年同期比増減要因

TOYO GOSEI

- 販売の増加、高付加価値品へのシフトにより、成長投資、原材料・燃料・物流コスト等の各種費用増を吸収し、増益。



2022年3月期　第2四半期損益計算書

TOYO GOSEI

- 売上高は、15,710百万円（※前年同期比+2,874百万円、※+22%）。
- 売上総利益率は、工場稼働の上昇と先端領域製品の増加により3.6ptの改善（22.7%→26.3%）。
- 販売管理費が+9%の増加に留まり、営業利益は2,369百万円（同+1,062百万円、+81%）の増益。

（百万円）	2021.3月期 2Q	**2022.3月期 2Q**	増減額	増減率
売上高	※12,835	**15,710**	※+2,874	※+22.4%
売上原価	9,916	**11,577**	+1,661	+16.8%
売上総利益	2,919	**4,133**	+1,213	+41.6%
販売管理費	1,612	**1,764**	+151	+9.4%
営業利益	1,306	**2,369**	+1,062	+81.3%
営業外収益	69	**59**	△9	△14.2%
営業外費用	98	**68**	△30	△30.5%
経常利益	1,277	**2,360**	+1,082	+84.7%
特別損益	△16	**△12**	+3	－
税引前四半期純利益	1,261	**2,347**	+1,085	+86.1%
法人税等合計	396	**721**	+325	+82.2%
四半期純利益	865	**1,625**	+759	+87.8%

[売上総利益　+1,213]
売上総利益率が3.6pt改善

※2022年３月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年３月31日）を適用しております。この結果、前第2四半期累計期間と会計処理が異なっています。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期　第2四半期　キャッシュフロー計算書

TOYO GOSEI

- 営業CF：4,479百万円　販売拡大による利益増および運転資金改善の効果により営業CF拡大。
- 投資CF：△3,195百万円　設備増強投資は継続しているものの、昨年の新製造棟の投資に比べ減少。
- 財務CF：△1,287百万円　CFの改善により借入金を圧縮。

（百万円）	2021.3月期 2Q	**2022.3月期 2Q**	増減額
営業活動によるCF	2,165	**4,479**	+2,314
税金等調整前純利益	1,261	**2,347**	+1,085
減価償却費	1.087	**1,273**	+186
売掛債権の増減額（+は減少）	581	**407**	△173
棚卸資産の増減額（+は減少）	△507	**△654**	△146
仕入債務の増減額（+は増加）	356	**933**	+576
その他	△613	**172**	+785
投資活動によるCF	△4,729	**△3,195**	+1,534
フリー・キャッシュフロー	△2,564	**1,284**	+3,849
財務活動によるCF	2,711	**△1,287**	△3,999
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	**6**	+23
現金及び現金同等物の増減	130	**3**	△127
現金及び現金同等物の期末残高	3,301	**3,385**	+84

運転資金改善

原燃料費増加、サプライチェーン混乱による原材料の在庫水準積み増し

2022年3月期　第2四半期　貸借対照表

TOYO GOSEI

- 有形固定資産は、減価償却が進み、新設備の取得を上回り△711百万円の減少。
- 有利子負債は、CFの改善により△1,125百万円の減少。
- 感光材新製造棟の設備未払金の減少など（△2,231百万円）。
- 株主資本は、当期純利益の増加により1,545百万円の増加。
- 自己資本比率は33.6%（前期末比+4.2pt）となり30%を超過。

（百万円）	2021.3月末	**2021.9月末**	増減額
流動資産	16,998	**16,845**	△152
現金預金	3,794	**3,797**	+3
売上債権	5,386	**4,979**	△407
棚卸資産	6,983	**7,638**	+654
その他	833	**430**	△402
固定資産	26,520	**25,807**	△712
有形固定資産	24,908	**24,197**	△711
無形固定資産	523	**516**	△7
投資・その他	1,088	**1,094**	5
資産合計	43,518	**42,652**	△865

（百万円）	2021.3月末	**2021.9月末**	増減額
負債	30,727	**28,303**	△2,423
仕入債務	3,470	**4,403**	+933
有利子負債	19,987	**18,862**	△1,125
その他	7,269	**5,037**	△2,231
純資産	12,790	**14,348**	+1,558
株主資本	12,750	**14,295**	+1,545
評価・換算差額等	40	**53**	+13
負債・純資産合計	43,518	**42,652**	△865

[自己資本比率]　33.6%（前期末比+4.2pt）

1．2022年3月期　第2四半期　決算概要

2．2022年3月期　第2四半期　事業概況

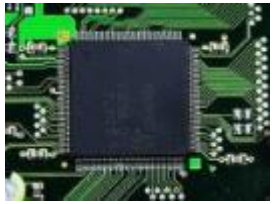
3．2022年3月期　業績見通し

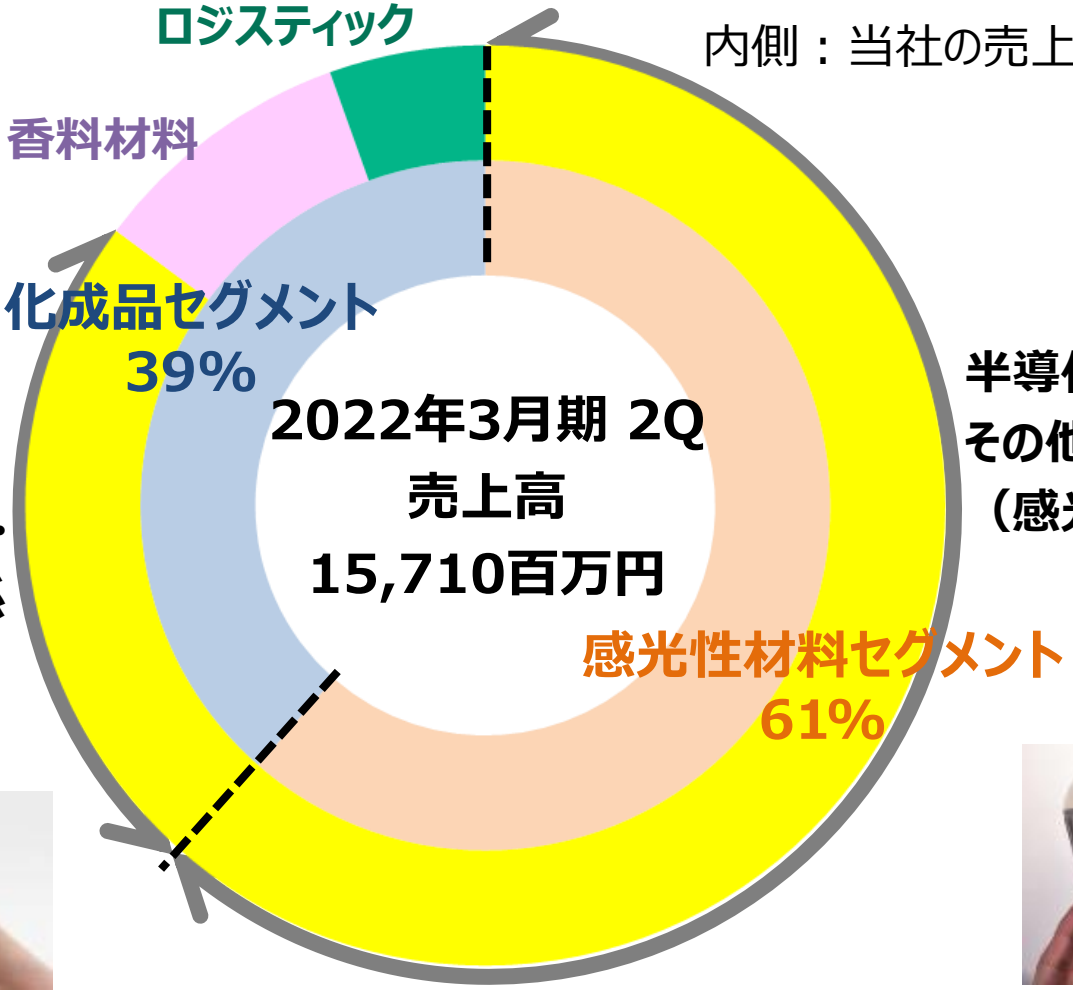
事業ポートフォリオ

TOYO GOSEI

- 当社売り上げの8割以上が、半導体・ディスプレイ・その他電子材料関係。

外側：対面市場
内側：当社の売上比率

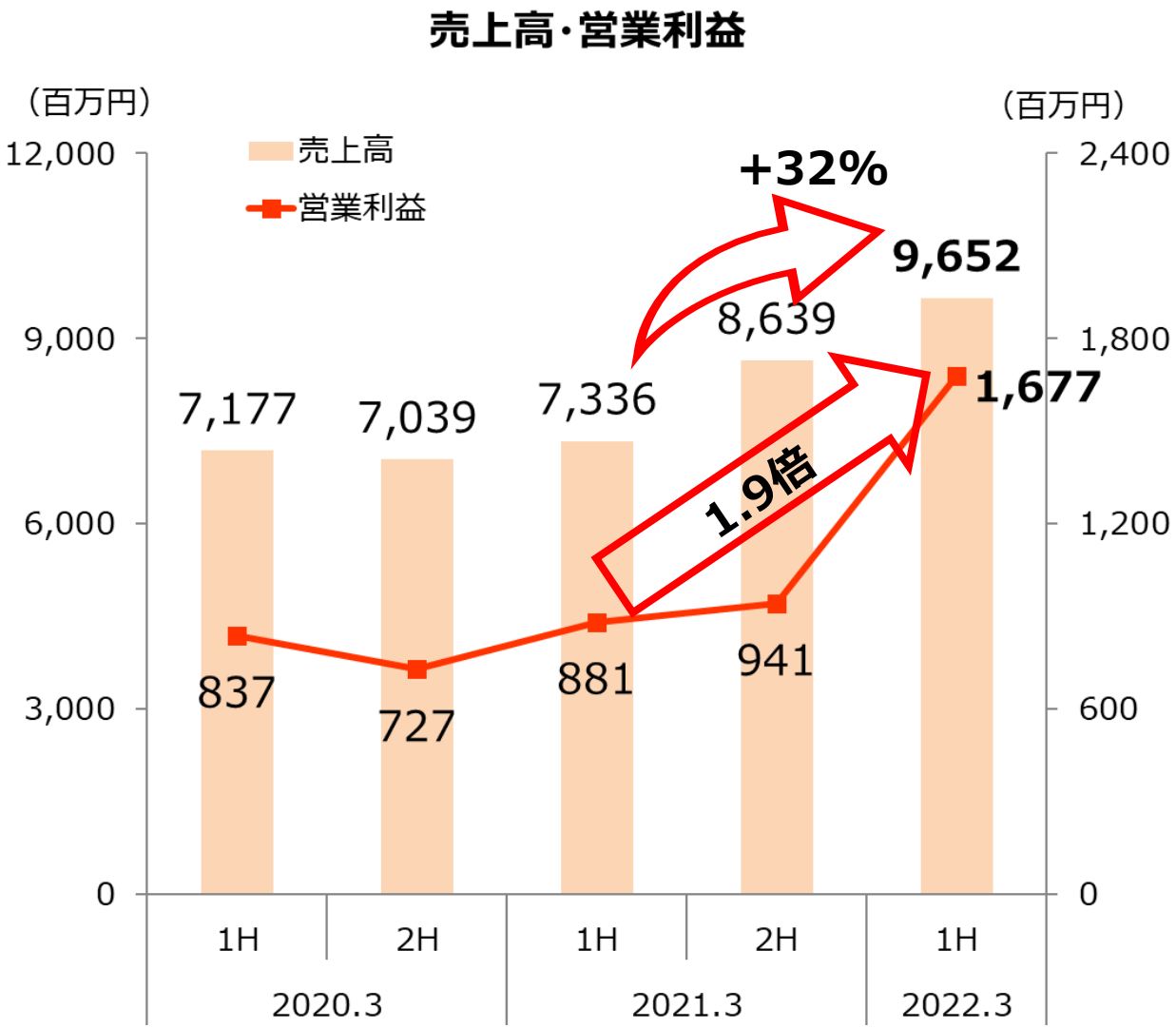




半導体・ディスプレイ・
その他電子材料関係
（感光材・ポリマー）

半導体・ディスプレイ・
その他電子材料関係
（高純度溶剤）

感光性材料セグメント



売上高：9,652百万円

（前年同期比※+2,315百万円、※+32%）

- 半導体用途は前下半期から好調が継続。
- ディスプレイ用途は前期4Qからの好調が継続。

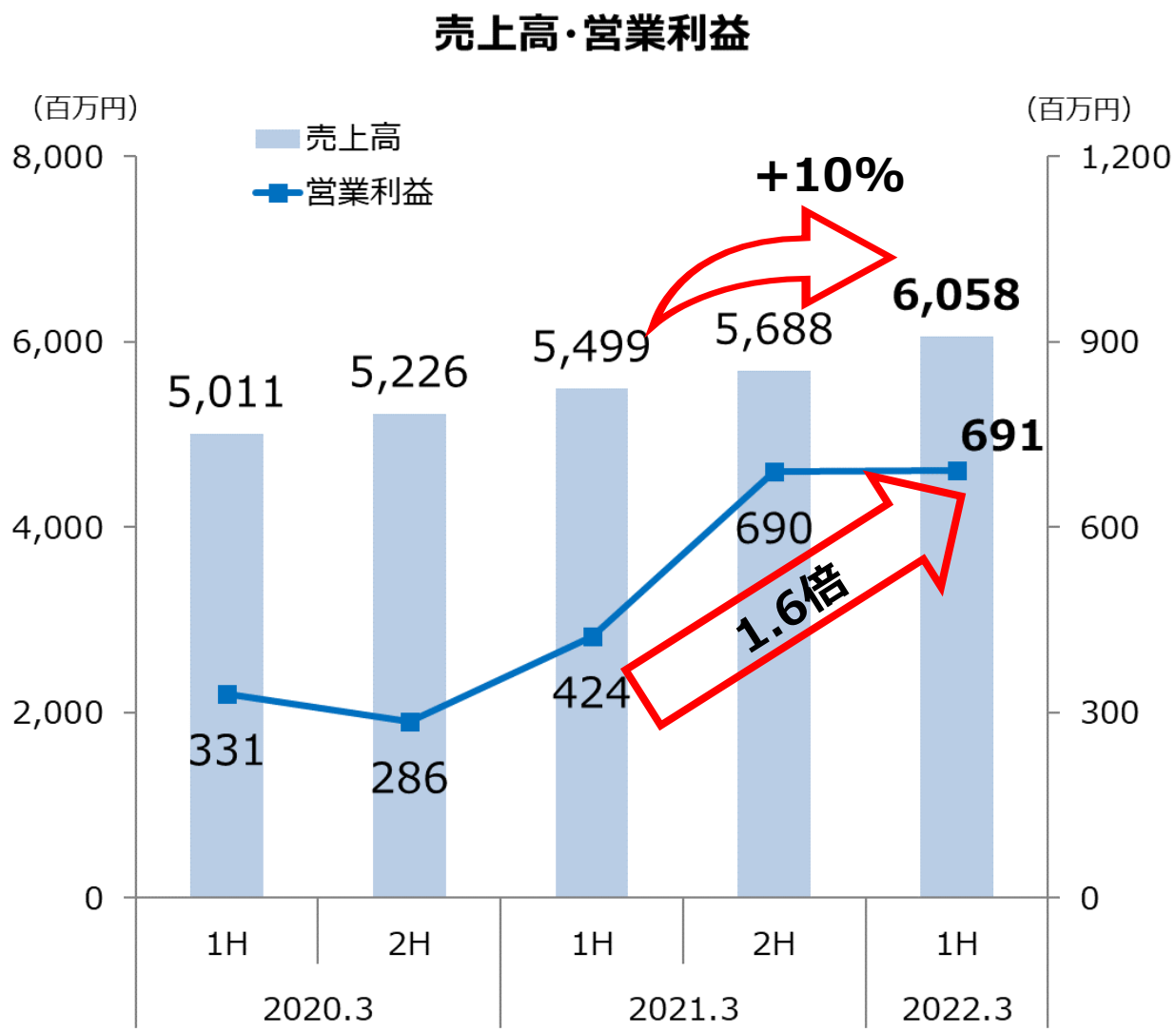
営業利益：1,677百万円

（同+795百万円、+90%）

- 半導体用途、ディスプレイ用途全ての領域での増産により設備能力増強に伴う労務費・償却費の増加を吸収し、増益。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は207百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

化成品セグメント



売上高：6,058百万円

（前年同期比※+558百万円、※+10%）

- 電子材料関連は好調持続。
- 香料材料関連は堅調に推移。
- ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、国内化学品の荷動き量が回復。

営業利益：691百万円

（同+266百万円、+63%）

- 需要拡大に伴う増産により増益。
- 原材料高に伴い価格反映を実施。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は321百万円の減少。前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

1．2022年3月期　第2四半期　決算概要

2．2022年3月期　第2四半期　事業概況

3．2022年3月期　業績見通し

2022年3月期　業績予想・進捗状況

TOYO GOSEI

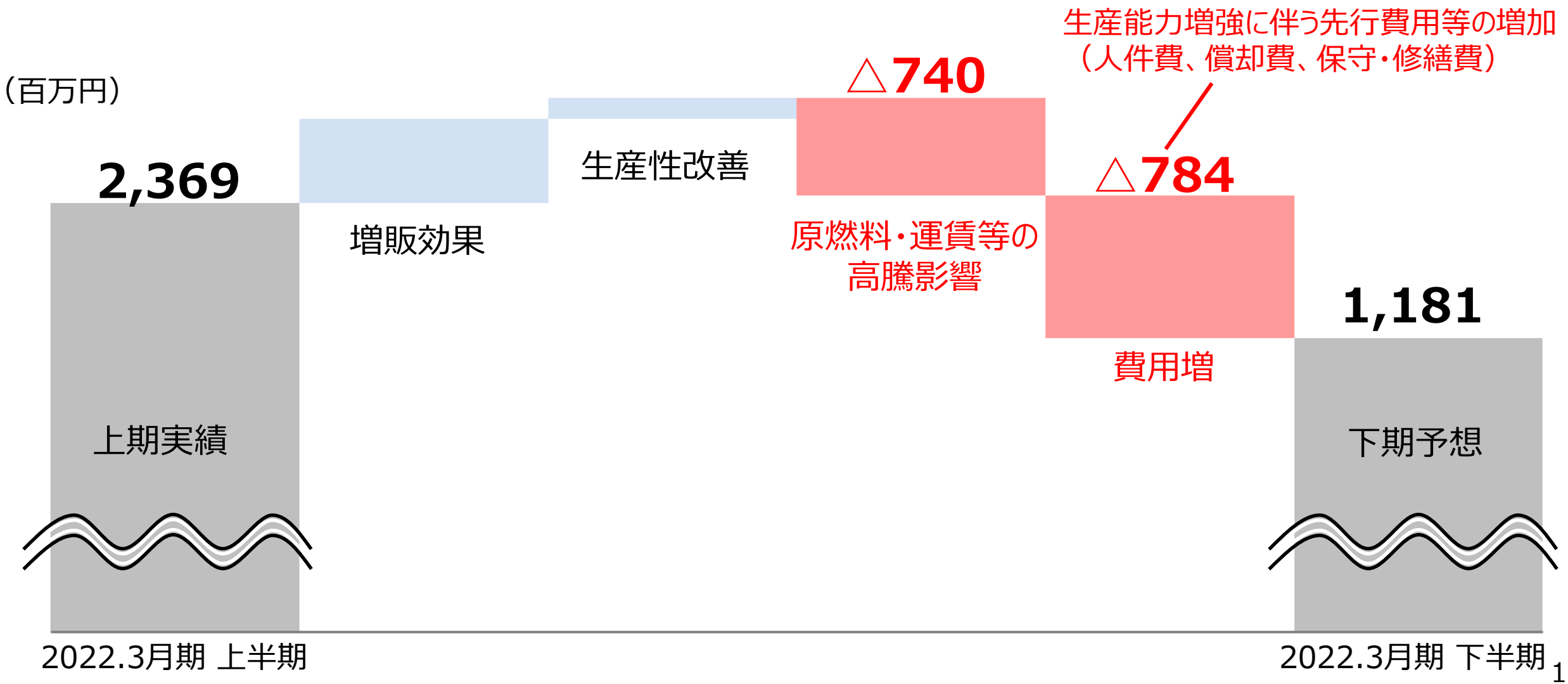
- 通期業績予想の進捗率は売上高50%、各利益65%を超過。
- 今後も需要は強い見込みだが、原油・原材料価格の上昇に加え、下期の工事・定期修繕、人員増に伴う費用増等を見込んでおり、先行きが不透明なため、現時点での業績予想の変更はありません。
- 配当は、中間期15円、期末15円から変更はありません。

（百万円）	2022.3月期 業績予想	2022.3月期 2Q 実績	進捗率
売上高	30,000	15,710	**52.4%**
営業利益	3,550	2,369	**66.7%**
経常利益	3,400	2,360	**69.4%**
当期（四半期）純利益	2,400	1,625	**67.7%**
1株当たり当期（四半期）純利益	302.38円	204.79円	
為替レート（USD）	¥105/$	¥111.9/$	

営業利益　2022年3月期上下比較

TOYO GOSEI

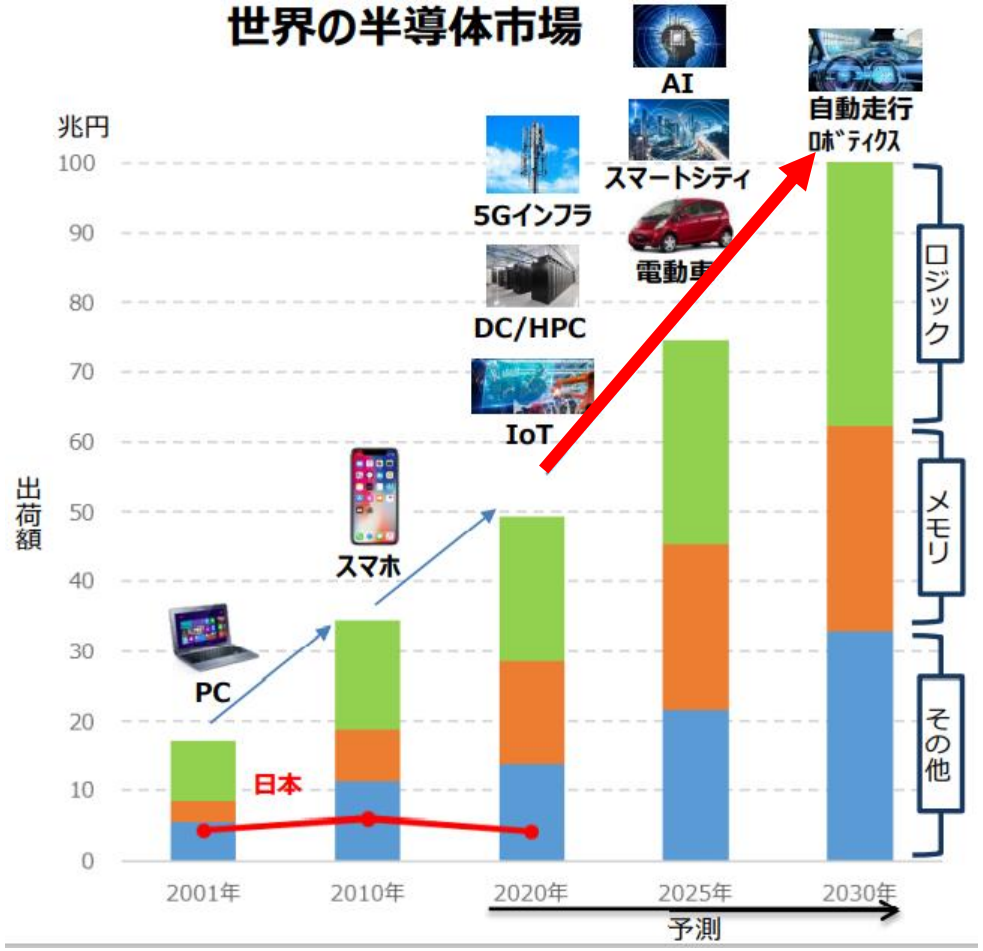
・下期は、原油・原材料価格の上昇に加え、工事・定期修繕、人員増に伴う費用等が増加する見込み。



次の成長ステージに向けて

TOYO GOSEI

- 2020年から2030年の10年間で半導体市場は2倍に拡大見込み。
- 今後の需要拡大を見据え、千葉工場隣接地の取得とともに、次期中期経営計画についても現在準備中。
- 株式会社東京証券取引所の新市場区分への移行において「スタンダード市場」を選択予定。



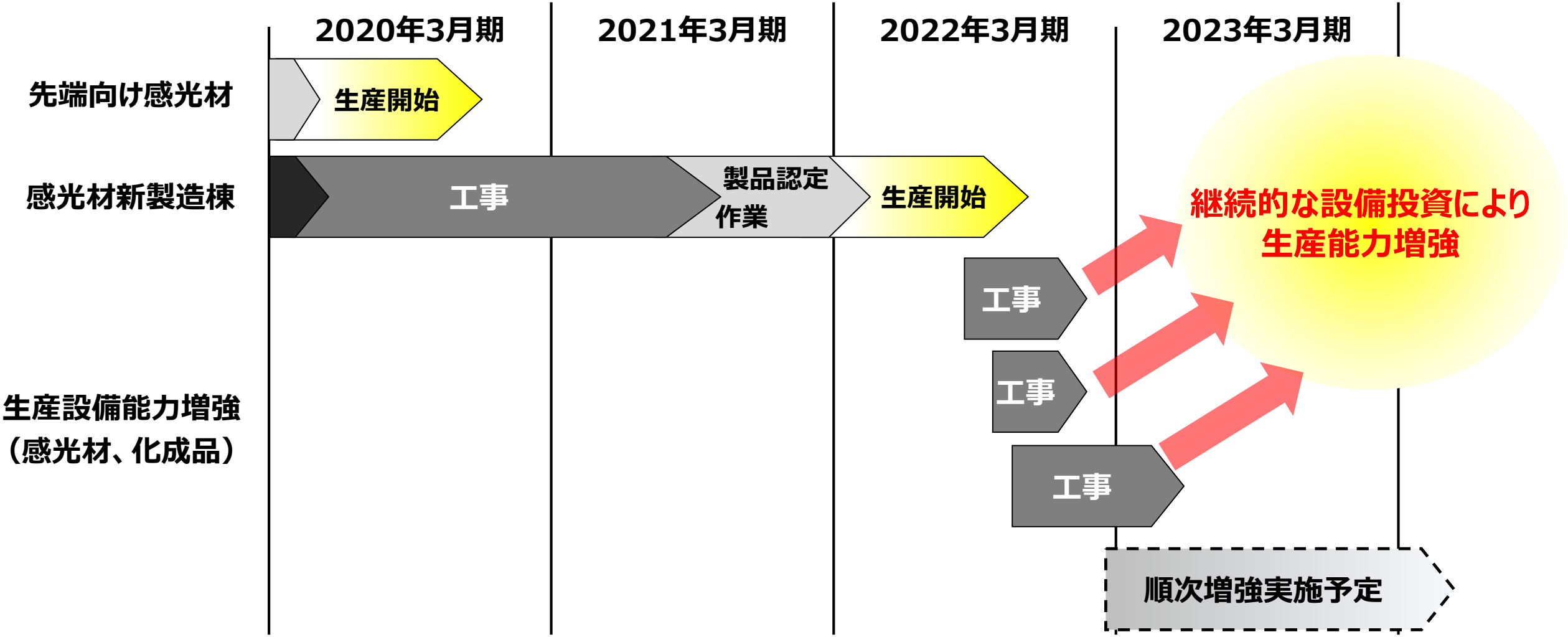
出所：経済産業省　半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より抜粋

千葉工場周辺図

各工場の生産能力増強

TOYO GOSEI

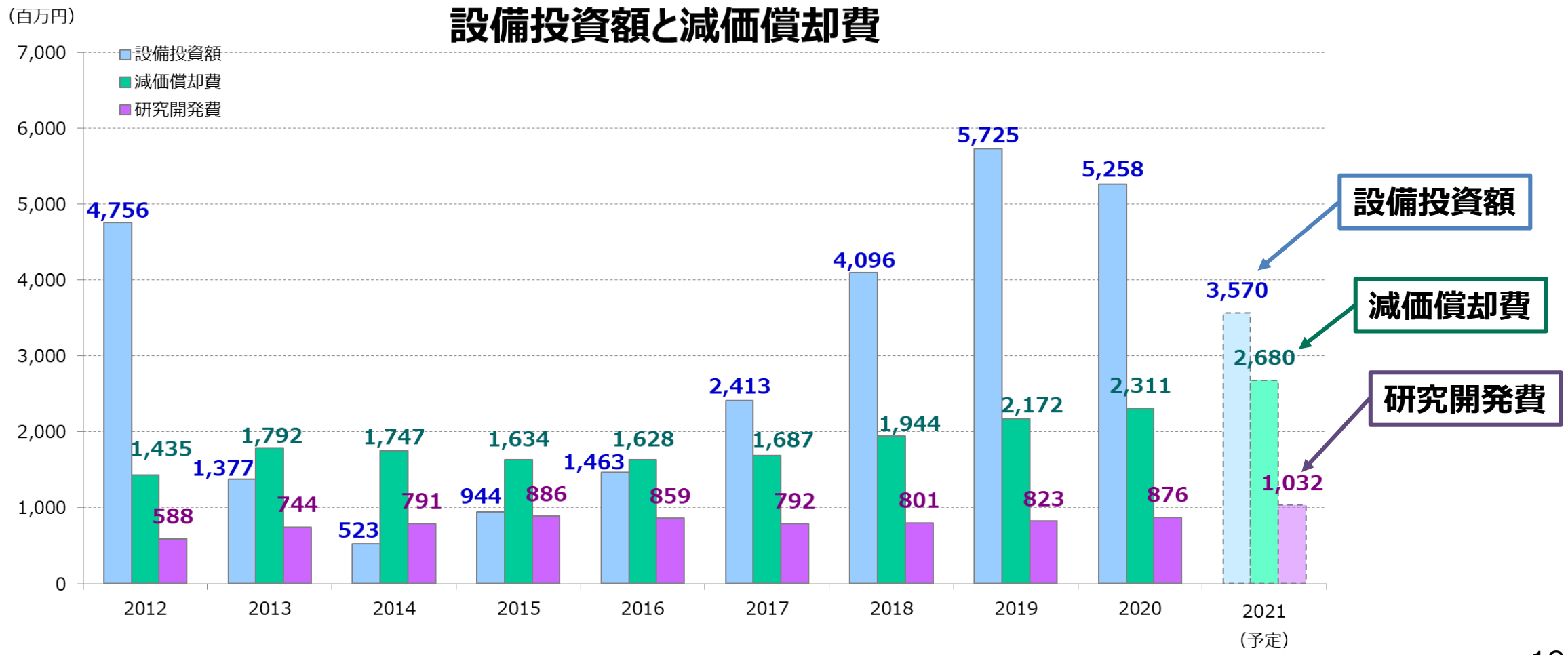
- 感光材新製造棟は今期から生産開始。
- 各セグメントで既存設備の能力増強も継続実施。



設備投資・減価償却・研究開発の推移

TOYO GOSEI

- 電子材料の需要拡大に伴い、2017年度から生産能力増強を継続実施。
- 大型投資は一巡し、2021年度の設備投資は約35億円を計画。今後も継続予定。
- 研究開発は製造技術力強化（分析能力強化、生産性向上、試作設備増強）により+1.5億円を計画。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

（見通しに関する注意事項）

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。